

## 一般演題抄録

- I-1 下気道におけるレチノイン酸誘導遺伝子-I 様受容体を介した抗ウイルス自然免疫応答  
 ○千葉友揮<sup>1</sup> 松宮朋穂<sup>2</sup> 佐藤次生<sup>3</sup> 早狩 亮<sup>2</sup> 邢 飛<sup>2</sup>  
 吉田秀見<sup>2</sup> 丹治邦和<sup>4</sup> 水上浩哉<sup>3</sup> 今泉忠淳<sup>2</sup> 伊藤悦朗<sup>1</sup>  
 (弘前大・院医・小児科学<sup>1</sup> 弘前大・院医・脳血管病態学<sup>2</sup>  
 弘前大・院医・分子病態病理学<sup>3</sup> 弘前大・院医・脳神経病理学<sup>4</sup>)

- I-2 紫外線照射によるチタンおよびチタン合金の骨伝導能効果  
 ○山内良太<sup>1</sup> 板橋泰斗<sup>2</sup> 和田簡一郎<sup>1</sup> 田中利弘<sup>1</sup>  
 塩崎崇<sup>1</sup> 石橋恭之<sup>1</sup>  
 (弘前大学大学院医学研究科整形外科学講座<sup>1</sup> 黒石市国民健康保険黒石病院整形外科<sup>2</sup>)

- II-3 ショッピングモールを活用した地域医療活動報告 第2報  
 世界糖尿病デー 健康大作戦  
 ○伊藤寛喜<sup>1</sup> 水上和博<sup>1</sup> 緒力晴彦<sup>2</sup>  
 ((医)健永会明日実病院<sup>1</sup> 慶応義塾大学病院内視鏡センター<sup>2</sup>)

糖尿病、癌、脳卒中 ワースト 1 の人口減少地区北日本、なんとかさねばねーそこで、1日約5000人の来客で、50才以上が80%を占める、秋田県の大館イトクショッピングモールで、世界糖尿病デー(国連主導で毎年11月14日開催)に2日間にわたり、多くの地域住民の方々に気軽に参加して頂く様に「無料のHbA1c測定」「5分でわかる糖尿病」「糖尿病の別名はインスリン無駄使い病! または炭水化物依存症! または糖毒病だ!」「DVD 食事で改善糖尿病」「実践! 糖質成分チェック法」「簡単筋トレ体操」「歯周病対策」「糖尿病と発癌因子〜胃 大腸カメラでどこまで見えるか」「栄養相談」などをマジックショーや鼻笛などの笑いのパフォーマンスを交えての楽しい啓発活動を開催した。目玉は、明日実病院の糖尿病友の会(しらふし会)の61才男性(178cm 91kg BMI28.7)の「インスリンから見事に離脱できた体験発表」でした。

指導のポイントは

1. 身長から100を引いた体重を目指す(今回は178-100≒80kgを目指す)
2. デンプン(炭水化物・糖質)食材を1/4残す
3. 食後60分以内に筋肉を動かす

以上の3点でした。約7ヶ月で、BMIが28.7→25.5、体重が91→81、HbA1cが9→6.5、食後60分の血糖値が280→118、と著明に減少し、インスリン量も40単位→20→10→0と離脱に成功しました。まさかインスリンから離脱できるなんて夢にも思わなかったとのコメント頂きました。

まとめ

1. 食の宝庫 ショッピングモールでの地域医療活動はとても有意義であった
2. 世界糖尿病デーなどのイベントを活用して 肩の凝らない「気軽に参加」「楽しく参加」「体験して参加」「マジックや笑いネタの活用」などは 絶大の効果をもたらした
3. 医者でなく患者さんの生の体験発表がとても説得力があった
4. 今後は大学や医療施設はモールなど活用してもっと外に向けての地域医療活動が重要だと思われた

- II-4 5歳児発達健診における発達障害の疫学  
 ○坂本由唯<sup>1)</sup> 斎藤まなぶ<sup>1)</sup> 中村和彦<sup>2)3)</sup>  
 (弘前大・医附属病院・神経科精神科<sup>1)</sup>、  
 弘前大・院医・神経精神医学<sup>2)</sup>、弘前大・院医・附属子どもの  
 こころの発達研究センター<sup>3)</sup>)